



12月5日まで

国立アイヌ民族博物館 第3回特別展示 国立民族学博物館巡回展 「ビーズ アイヌモシリから世界へ」



さまざまな部材に穴をあけ、糸やひもで部材と部材をつなげたビーズ。12万年前に誕生して以来、世界中の文化の中に普遍的に広まったビーズの世界を、ビーズコレクション数を誇る国立民族学博物館（大阪府吹田市）が2017年に開催した特別展の資料に、北海道の歴史とアイヌ文化を大幅に加えた約500点の貴重な資料で紹介しています。

展示は、ガラスや石、骨や羽、ツメなど動物の一部、貝など実に多様な素材を展示するコーナー

や、北海道では古くから交易品として遠く離れた地域や人を結びつけてきた歴史、「踊る・飾る・祈る」というビーズと暮らしなど六つのテーマで構成。来場者は世界各地の珍しいビーズや美しさ、精巧さに目を奪われていました。国立アイヌ民族博物館の佐々木史郎館長は「アイヌ民族は交易でビーズを手に入れました。ビーズは世界の人々をつなぐもの。ビーズの旅を楽しんでください」と来場をPRしていました。



タマサイやシトキなどと呼ばれる首飾りは、アイヌ民族の家族の中で母から子へ継承されるという



全てガラス製のビーズで作られたナイジェリア・ヨルバ族の「人像」



世界のビーズが一堂に会する特別展示